

うになりました。

ある日、お父さんは、しょうらいりっぱな人間になるようにと、菅原道真すがわらみちざねをまつた小平瀉こびらがたの天神さまにつれて行きました。久敬くけいが九才のときでした。この日の会津磐梯山あいづばんたいさんは、青い空にくつきりとした姿をあらわし、近くの猪苗代湖は水を



まんまとたたえていました。久敬は、はじめて見た雄大ゆうだいなけしきに、目をみはりました。

「こんな山の中に、こんな大きな湖があったのか、この水を須賀川に運べたらなあ。」

と、しばらく砂浜すなはまの波う